

## 第1回行文線未整備区間の整備再開に向けた村民説明会 議事録

日時 平成28年7月7日(木) 午後2時から

場所 地域福祉センター2階会議室

事務局 副村長

村役場総務課長

村役場建設水道課長

支庁土木課長

支庁土木課道路河川担当

参加者 3名

1. 説明内容等については、午後7時からの部と同様

2. 質疑応答

(参加者) 今の説明の中でありました航空レーザー測量というものがどのようなものなのか。要するに航空写真から測量するということですかね。あと、その手法ですね。今まで航空写真も含めた測量で作られた国土地理院の地形図とか、東京都の都市計画図とかありますけれども、精密になればなるほど地形ではなくて樹冠をとってしまう。そこに本当は沢の鞍部ができるはずがないんだけどくぼ地ができてるとか、測量の精確性というものがどの程度のものなのか。あと、縮尺ですね。そういうところをご説明していただきたいと思えます。

(土木課長) 基本的には1000分の1です。航空レーザー測量とは、飛行機に搭載されたレーザースキャナからレーザー照射をして、そのはね返りの時間差で高低差を把握していくというかたちです。一般的に行われている航空測量の一つです。

(参加者) 飛行機というのはどういう種類ですか。

(土木課長) これから計画を練っていくこととなりますが、おそらくセスナでやるかたちになります。

(道路河川担当) 航続距離の関係がありますので、今のところ硫黄島経由で対応できる大きさの飛行機になります。詳細は今詰めている状況です。

(参加者) そうすると、本当に必要なのは樹冠の高さではなくて、樹冠の下にある地形なんですよ。

(土木課長) それは地形を精確に捉えることができます。

(参加者) それは航空測量だけで精確に捉えることができるんですか。

(土木課長) そうです。

(参加者) 実際にそこに木があっても。

(土木課長) 私も心配だったのでそこは、木を切る必要はあるのかということも聞いたので

すが、その必要はまったくないということでございます。木を切るとなると、またいろいろな問題が出てきますので、今の段階ではそういうこともすることもなかなか難しいですから、そういう意味ではこの方法を採用して早い段階で地形を精確に測るというふうに考えております。

(参加者) 実際にそれが成果物として出来るのはいつなんですか。

(土木課長) 今年度の後半になると思います。

(参加者) 7月から11月の間でやりますよね。それをまとめて地形図を作る。

(土木課長) そうです。飛行機で飛ぶのはここに書いてあるとおり2日間くらいですけど、あとは11月までに地形測量の図面、いわゆる平面図を作り上げるというかたちになると思います。

(参加者) 11月というのが、測量成果が得られるというイメージですね。

(土木課長) そうです。一応工期として設定しております。

(参加者) 資料1-1に昭和61年から62年に植物の専門家から保全すべき植物があるとの意見書が提出されていますよね。この保全すべき植物は、対策は決まっているのですか。今度整備するとなったら、はっきり言ってあれからこの間に全滅しているとは考えにくいので、やっぱり保全すべき植物は生息しているわけじゃないですか。その真横を通るとというのが前の説明だったので、そこを掘削しちゃうと植物が枯れちゃうという恐れが非常に大きくなってくると思います。それを今現在、あのときと比べてさらに世界自然遺産という枷がかかっているわけです。世界自然遺産にかかっているのに、あのときにかかっていなかった枷を乗り越えて行文線を作っちゃおうという暴挙ですよ。もう世界自然遺産は返上してもいいということでしょうか。植物のみならず、奥村川の下流にカニが生息していて、おそらくあそこ工事を始めると多量の土砂が大雨のときに河川を変更しちゃう恐れがありますから、水生生物に対する影響は非常に大きいと思います。あそこにしか棲んでいないという話を聞いたことがあるので、あそこにしか棲んでいないカニが工事のせいで全滅しちゃったらどうするのかということが心配されます。それと次に、平成23年3月11日のことを書いてありまして、その下に深夜の最悪の場合、死者が127人出ると書いてありますけど、次のページに書いてあるとおり南海トラフは1時間半かかって来るんですよ。やっぱり深夜であってもこんなに死者が出るとはちょっと考えづらいんで、何のお知らせも無く避難しなければこうなるという話ではないですか、この127人の死者というのは。あと、確か2005年あたりに政府が、今後30年間に起こりうる震度4から5以上の地震の予想を出してまして、それがほとんど外れているんですよ。東日本大震災も外れてます。今度の熊本の地震のこともその予測の中にはぜんぜん入っていなかったし、北陸の地震も入っていなかった。入っていない地震が起こっていて、起こるだろうという地震が起こっていないんですよ。政府の関係者の中では、政府の発表する地震の予測はかなりあやしいということで、最近出し直されましたよね。ご存知ですか。あれを見ると2005年の地図とかなり違っているんですけど、そのあやしげな政府の予想をもとにこういう計画を立てられると

というのは、まずいかなものか。あと、もう一点は、村の村議が全員賛成している、これに。村議の方たちおよび村長さんは全員ほとんど安全な所に住んでますよね。清瀬の都住とか。私の意見としては行文線を今からガンガンやっても最短で出来るのは数年先ですよ。それより先に都営住宅の建て直しの方に総力を向けて欲しいという切実なる要望を出してます。村議の方たちは全員都営住宅の所に住んでいるので、新しい都営住宅はいらないかもしれないですけど、月に8万、10万払っている村民ははっきり言ってご覧のとおり今日参加者、午後2時からの部は3名ですよ。夜にどさっと来るとは思えません。村民の関心は行文線にはありません。都営住宅の再整備の方を強く求めたいと思います。以上です。

(土木課長) まずは、いちばん最初にございました希少な植物のお話とカニ、ベニシオマネキのお話がありました。これは、あくまでルートが決まってそれから施工計画が決まってとかたちになるとは思いますけれども、ただ一つ申し上げたいのは、やはりルート決定に当たってはまず希少な植物の配置がどうなっているかということを考えてうえでルートは決定をしていきたいと思っています。それから、工事の排水だとか山を切ったあとに流れ出る土砂による河川への土砂流出だとかということを見ると、それがカニに与える影響があるだろうということだと思います。ですから、工事の施工の段階で取りうる対策をきちんと表明をさせていただいて、そこもきちんと専門家の意見を聞きながら施工には当たっていききたいと思っています。

(副村長) 発言の中で世界遺産をどうのという話がありましたが、この道路の整備が理由で遺産登録が外されるような道路を作ろうというつもりは全然ありません。村議会の全会一致とか村の要望の中でも、まずは総論として必要だということに今回は力点があって、具体的な話というのは、予備的な調査は我々もやりましたけど、ちょっとした調査ではなくて、きちんとした環境調査をしながらそれこそ過去にあったバックダンをぶった切るような道路案とかそういうものはもう考えられない。そういうところの配慮をこれから検討会やみなさんへのルート案の提示をしながら、キャッチボールをしながら決めていくという姿勢は持っています。

(総務課長) 資料1-2のところでもケース⑤[冬・深夜]ということで、参考のために載せましたけど、これはあくまで最悪の事案を想定した場合で、このケースは早期避難率が2割の場合はこういう結果になりますということです。もし早期避難率が7割でしたら、この数値は低くなるという想定です。あくまで、最悪のケースを出しています。

(参加者) 1時間半あるでしょう。

(副村長) 基本は村の姿勢は死者数ゼロです。少なくとも人命はゼロというのを、時間があればあるだけ避難はできますから。これはあくまで参考で出しているのは、今総務課長が言ったように東京都が数式に入れて単純に出している数字なので、あまりこれにこだわるといよりはむしろ村はこれをゼロにするんだというつもりで避難路を整備したり連絡体制、Jアラートを導入したり、そういったことをやっています。

(総務課長) 南海トラフについては、東日本大震災が発生してその翌年の平成24年に中央

防災会議が検討会を重ねて起こる可能性があるということを具体的に各行政機関に対策を促して、我々もそれに沿ったかたちで地域防災計画を修正したりしています。やはり私たちが熊本地震が起きたりとか気になります、あくまでも中央防災会議の要請のあったものに対して、しっかりと対応していくということでご理解願います。

(参加者) 危険性はあるけれども、かなり私としては国の発表とかなり外れてきているので、予測が食い違って起こるはずだったところより起こらない可能性の高かった所の方に巨大地震が襲っている。千年スパンとか数百年スパンで起こるやつを、おそらく一部の専門家はもう予測不可能と、起こる確率はあるけれど確率地図なんて作れないと。何で本当に南海トラフだけに……備えるのは分かるんですけどあたふたあたふた、いつ起こるか本当に予測できないって言ってるんですか。

(副村長) こういうハザードマップとかが出ているのは、今はどうしても東京都さんで作っていただいているのが南海トラフしか想定していないんですが、ご承知のようにチリだろうがグアムだろうがアリューシャンとかどこからも、小笠原に津波が来襲するか分からない。まさにそのとおりなんです。近地地震でさえ過去の歴史にはある。だから、今は一番想定されている中で30年以内のものが南海トラフなのでそれを考えると、さらに東日本大震災のあの被害を見て改めて村議にしる我々行政側にしてこの区間をなんとかつなぎたいという思いでやっています。そういう意味で、基本的にはこの区間についてまずは整備をする。ただ、何でもいいということでは考えていない。だから、おっしゃるようにもうすぐに工事に入るかという、予定に書かれているように2年3年調査をしたり、そういったことをして工事に着手していくということです。

(土木課長) 道路の性格上から言うとやはり避難道路ということですから、我々としても早く整備がしたいという思いがあります。ただ、やはりこういう地域の道路ですから、そうはいかない。きちんと工事に入る前に調査するものは調査していくと考えるとこういう工程になっていくと思っています。それから、行文線より都住だというお話でございますけれども、この2月に都市整備局が来て説明会を開催させていただきました。そのときの説明はあくまで沖村の二戸建と清瀬の二戸建の話でした。その二つは確かに決まっているんです。その後については決まっていないというのが現状です。ただ、私もあの場で言わせていただきましたけれど、他の清瀬の都住もそうだし奥村の都住もああいう状態になっているというのは、彼らは見てます。私も管理する側として二戸建に続いて他の住宅についても建て替えていかなきゃだめだということをはっきり申し上げました。そこは、都市整備局は受けとっていますので、ただ彼らの立場とすると今具体的に言えるのはあの二戸建だけなんです。そういう意味では、行文線も進めます、都営住宅の建て替えも当然二戸建に続いて次のものも進めていきますと、進めさせますというのが私の立場だと思っているので、それは続けていきたいと思っています。

(参加者) 村として私は、どうせ行文線の要望書を都に出すんだったら、都営住宅の要望書をまず出して欲しかった。順番が逆だと言いたい。

(副村長) 都営住宅については、村の企画セクションが中心になって、ずっと都市整備局、東京都でいうと局が違いますが、そことやりとりしています。そして、その前向きに進めるという話があるから、あえて今回のような要望書だ意見書だという話にはならないんです。ただ、今回の行文線というのはなぜ最初に村がとりかかったかというのは、村の住民運動を含めて当時いったん保留、東京都さんからすると中止に近いような考え方を持たれていたのをもう一度お願いをしたい、それはやはり東日本大震災だったんです。そのためには最終的に、みなさんにも議会にもこういったやりとりの経過を説明しながら、意見書として議会は出そうと、うちは村長名での要望書を出そうということにつながっているんです。そこで、ようやく今日のような場がこうやってできあがってきているということです。

(土木課長) これからようやく都住の建て替えも少し見えてきた。で、その進捗があまりにもちんたらちんたらしているということであれば、またそういう話を村から東京都の都市整備局の方に上げてもらう、そういうやり方はあると思います。ようやく都市整備局も、今までがんばってきてなかなか踏み切れなかったところを踏み切ろうとしたのが2月の説明会だったものですから。

(参加者) 是非よろしくお願いします。ただ、村も是非、行文線にこれだけこういう資料まで作ってするんだったら、東京都にもうちちょっと都営住宅の方もガンガン押してください。よろしくお願いします。そうであれば文句はないです。

(副村長) みなさんに見えないところでガンガンやっていますが、見えていなのはまだまだ説明できないところがあって、建て替えの二戸建以降が見えない。それから、管理の問題もどうなるか説明がまだまとまっていないところがあります。

(参加者) どんどん進めてください。よろしくお願いします。

(副村長) 前も言ったように並行してやっていますので。

(参加者) 奥村川の調査をするということですけど、奥村川というのは実際どこを起点としているのか、通常のイメージでいうと潮路橋という橋がありますけど、そこからが川の端なり、土木課さんが管理しているということでしょうか。

(道路河川担当) 土木課の管理としては平成橋からです。そこから先になりますと、縦割りの話になりますが港湾課です、潮路橋は。

(参加者) 平成橋から上ということは砂防河川。

(道路河川担当) そうです。

(参加者) そこからが土木課さんの管理。

(道路河川担当) 管理している範囲としてはそこからです。

(参加者) そこより下流は港湾課さんの管理。

(道路河川担当) 管理は港湾課です。

(参加者) 通常奥村川の支流というのは、支流じゃないわけですね。

(土木課長) 水の流れがあるというだけです。

(参加者) 私は自分の意見書で別の箇所を書いて出したんですけど、都住で川のようになっ

てみんな川だと言っている、実際川ですが埋め立てでできた運河に二つの川が流れ込んでいる。もう一つの川の方が、あんまり改変されていなくて先ほど言ったようなシオマネキ、それも一時固有種ではないという否定の見解もありましたが最近では固有種という見解が支持されているということで、その川の水があるかないかというだけではなくて、陰湿な地形といいますかそういう所というのはかなり実際には埋め立てられたり暗渠になったりして、非常に軽視されているんですけど、そういうところがきちんと調査されるようにやっていただきたいなと思います。それから、先ほどの被害想定の話なんですけれども、東京都によるということで前提に一律に冬の深夜が一番被害が大きいということで小笠原もそれで計算していると思うんですけども、実際に今まで夏のお祭り広場でですね集まっていたときに津波だということで、当時は津波予報はありませんけれどもそういう連絡が役場へ入ってですね、それで大パニックになってみんなで逃げ出して、その頃屏風谷に住んでいた人、今住んでる人もですけど、死ぬ覚悟をしてそういう人を救い出すとかそういう話しではなく、とりあえずみんなお祭り広場から逃げろと、クモの子を散らすように。実際、小笠原の場合の被害想定というのは、むしろみんな酔っ払ってお祭り広場で寝ているとかですね、そういう夏の夜中の想定の方が一番現実的ではないかと思います。そうすると、津波の被害想定はもっと上回るだろうと思います。それから、被害想定の中で数字だけではなくて、その後すぐに復旧するのかという話で、津波で電気・水道・ガスが全部ダメになって、その後復旧できるのかということについては楽観視されているのか。あるいは、そういうことの被害想定はしていないのか。現実にはチリ地震津波の話を知ると、大村の方で砂の噴出しの跡があったと、カニの穴ではないかと思って手を突っ込んだら何もいなかったという話も聞きまして、いわゆる液状化があったと考えられてですね、そうすると実際そういう所に電線の地下埋設をしているということで、被害想定というものをもっときちんと深刻にやっていただきたい。

(副村長) ハザードマップとして出ているのは南海トラフですので、これは東南海・南海と連動した大地震でそれに伴う大津波ということで、考えられるのがこのハザードマップの浸水域が被害を表すと考えていいと思います。ただ、想定される被害というのは、そのときそのとおりの三つ連動した大きな地震になるかというところも限らないですから、今想定するとしたら津波の場合は最大を想定するとしたらこの赤や黄色になった所の建物を含めてほぼ壊滅すると。そうすると、今おっしゃったように電気は発電所が今の状態では使用不能になりますから、一時的な発電機能も自家発電を持っている施設としても燃料が絶えたら稼働できなくなる。というようなことを考えると、復旧・復興にあたるためのその時の被害状況によって住民の一時的な避難をするのかしないのか、高台での避難生活を賄えるのか、そういったところを被害を受けた段階で即時に判断する。その被害状況によっては船がどうなっているとか、そういういろいろな想定もありますから、それによっては自衛隊の輸送艦とかを含めた支援をお願いするといった判断を本部になる村を中心に行っていくということになると思います。想定する被害というのは、実際に起きた地震や津波によってだい

ぶ違ってくると思っています。むしろ、被害状況を見ながらいろいろな行動をしていくこと  
になります。

(総務課長) 他はよろしいですか。

(参加者) 資料の浄水場が平成27年度予定となっているから新しくしといたほうが。あと、  
これも今は無き養殖いかだが浮かんでますね。

(総務課長) はい。分かりました。失礼しました。そのほかに何かございますか。無ければ  
これで質疑応答を終わりたいと思います。